

記者発表資料

平成29年8月29日（火）

震災復興・企画課（震災復興・総合
企画係）

担当：木田（内線311）

みなと気仙沼大使に梅村マルティナさん 9月1日に委嘱状の交付式



■「みなと気仙沼大使」に梅村マルティナさん（58歳）＝市内在住＝を委嘱します。去る7月31日の本市「みなと気仙沼大使委嘱等検討会議」で委嘱を決定しました。9月1日（金）午後1時から、市役所2階の応接室で菅原茂市長から梅村さんに委嘱状を交付します。任期は9月1日から平成30年（2018年）9月30日まで。推薦人の加藤宣夫・気仙沼観光コンベンション協会会長も同席する予定です。

■梅村さんは「梅村マルティナ気仙沼F Sアトリエ株式会社（K F S）」代表取締役。ドイツ出身で昭和62年（1987年）に医学の研究のため来日しました。平成23年（2011年）の東日本大震災発生当時は京都市に住んでおり、被災地の避難所に支援物資として毛糸と編み針のセットを送付。そのうちの1カ所で唐桑町大沢地区の避難所となっていた小原木中学校体育館の避難者の方たちから「もっと毛糸を送ってほしい」という要望を受け、同年6月に気仙沼市を初めて訪問。これをきっかけに頻繁に気仙沼で編物教室を開くなど交流を深め、「子育て中の若いお母さんたちが自分たちの都合に合わせて働くことができる場所が必要」だと考えるようになり、翌年3月、ドイツ製毛糸の輸入・販売及びニット製品の製造・販売を手掛けるK F S社を設立しました。ご自身も同年4月に京都市から気仙沼市に転入しました。

■現在は本社アトリエ（松崎下赤田）、気仙沼駅前ショップ（古町三丁目）のほか、Webショップで国内外に販売しています。子育て世代の被災女性ら10人（正社員3人、パート社員7人）を雇用（7月現在）。扱っている毛糸には、気仙沼の海や森、魚など自然をイメージしたオリジナルの「気仙沼カラー」シリーズもあります。京都など関西での活動も継続されており、京都の寺で開かれる手づくり市などにも気仙沼で製作したニット製品を出品しています。

みなと気仙沼大使 76人・1団体

●気仙沼市は、本市にゆかりがあり各分野で活躍されている方を「みなと気仙沼大使」として委嘱し、自然・歴史・文化・食等の魅力発信と、知名度向上や地域振興に御協力をいただいています。今回の梅村さんへの委嘱などで大使は計76人（うち2人はコンビ）・1団体になります。